

令和6年度 第1回学校保健委員会報告

「子どもたちとゲーム・ネット・スマホ

～デジタル機器との付き合い方を考える～」

講師 吉川 徹 先生 愛知県尾張福祉相談センター 児童専門監

あいち発達障害者支援センター 副センター長

愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科（児童精神科）

日時 令和6年7月3日（水）午後2時00分～3時30分 場所 来迎寺小学校 図書室

**ゲームに興味のない私は否定的な捉え方しかしてきませんでした、
ゲームは楽しいものという理解を示して、子どももっとゲームの話をしようと思いました。
その中から、守ることのできる約束をしようと思います。（参加した保護者の感想より）**



「時代は後ろには戻りません。」吉川先生からそう言われて、ゲーム・ネット・スマホのない世界に逆戻りすることはないと改めて気がつきました。大人も子どもも、その便利さや楽しさについて時間を使ってしまいます。広がる可能性や楽しさはそのまま、私たちはどう付き合っていくのか、どうコントロールしていくのかを勉強しました。

参加したみなさんは最後まで熱心に耳を傾け、講演後は質問の列ができていました。

1 デジタル機器を使って子どもたちがやっていること

子どもによって付き合い方も多様で、一人ひとり違います。

知っていますか？

ゲーム：シューティングゲーム、ソシャゲ、位置ゲー

動画視聴（YouTube、ニコニコ動画）：多くは無料。自分のタイミングで見ることができる。

創作活動：動画配信、漫画・ブログ・小説を書く。マイクラフト

ネットリテラシー＝情報ネットワークを正しく利用することができる能力

（使えるリテラシー・安全に使うリテラシー・使いすぎないリテラシー）

➡大人・親のリテラシーが不十分なので、勉強が必要。

2 子どもとの約束について

・問題が生じてから約束を追加するのは難しいので、使わせる前や購入前がいい。

・約束は子どもが守るものではなく大人が守らせるもの。守らせることのできる約束をする。 ➡完全な大人のコントロール下で利用開始することが望ましい。

※子どもには、ネットとゲームの他にも、楽しいことややりがいのあることがこの世の中にはたくさんあることを伝えたい。

ゲーム機の所有者は親で、
子どもに貸し出すのも一案！

3 「おしまい」の練習

- ・「おしまいにする」ことが「嫌なことだ」という気持ちを育てない。ゲームのあとは、「宿題をやりなさい」ではなく、「おやつにしよう」など。ゲームに合わせたタイミングやおしまいあとのスケジュールの工夫が必要。「ゲームは宿題の後！」ではなく、ゲームを先にやるでもいい。その子に合った時間にする。

お手伝いをするとポイントがついて、そのポイントでゲームができるというルールはいかがですか？

※おしまいを大人がしっかり手伝い、いずれは完全に自立に任せること。

4 子どもがゲーム機やスマホを欲しいと言い出したら

※大人もそれに興味を持っていることを示し、親が心配していることをはっきりと伝えること
【メールや LINE などを始める前に】

- ・「家族でメール」や「家族で LINE」から始め、いつでもやり取りの内容を親が確認してもいいという約束から開始し、年齢とともに制限を解除していく。

【大人・親がする大切なこと】

- ・デジタル機器とネットの使用は避けては通れませんが、リアルの活動「も」楽しめるように働きかけていきましょう。
- ・ネットやゲームの世界に関心と知識を持ちましょう。
- ・興味をもって子どもの世界を聞き取りましょう。
- ・できれば一緒にプレイしましょう。

※ゲームとネットの世界は本気で面白いことを認めないと、子どもとは話が通じなくなくなります。



【参加した方の感想】

- ・吉川先生の、「前向きに突破するしかない」という言葉が刺さった。
- ・ゲームの他に頼るところがないことが、ゲーム依存を深刻化させるということが印象に残った。
- ・ネット・ゲームの他にも、楽しいことややりがいがあることがたくさんあることを子どもに伝えていきたい。
- ・ネット・ゲームは避けるものではなく、中高校生までに自立させるものという考え方が心に残った。
- ・デジタル機器を使って、子どもたちが何をやっているのかがよくわかった。
- ・子どもの立場からの言葉は説得力があった。子どもがもっと小さかった頃に知りたかった。
- ・「ゲームを問題と考えない。興味をもって子どもと一緒にプレイしましょう」という先生の言葉が印象的だった。大人はネット・ゲームの世界に関心と知識を持って、子どもの目線に立つということが大切だと思った。(精神科看護師)
- ・「昨夜はゲームをしていて、寝たのが2時です。」という生徒が保健室に多く来ます。否定的な対応からはじめるのではなく、まずは興味をもって聞くことから始めたい。(中学校養護教諭)
- ・保健室で養護教諭として何ができるのかを考えていきたい。(小学校養護教諭)

